

「裏庭のキジ」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

キジ(雉)のオスは、縄張り意識が非常に強い。今の時期は、毎年私の山荘の裏庭を縄張りとするオスのキジがいて、「ケン、ケン」と甲高い声で、自分の「領地」を主張している。



先日も裏庭から大きな声が聞こえたので、写真を撮ろうと、あわてて庭に出た。確かにキジがいる。



春先はオスだけ単独で行動していることが多いが、今の時期はつがい(夫婦)で一緒に歩いていることが多い。右の派手な旦那がオスで、左の地味な奥方がメスだ。鳥類はオスのほうが派手なものが多いが、キジほど雌雄の区別が容易な鳥類はほかにないだろう。キジは6月ごろに地上で営巣し、6~8個程度の卵を抱卵する。7月になると雛がかえって、大家族と一緒に歩くようになる。



キジのオスは実に立派だ。もともと顔が赤いのだが、繁殖期は特に赤い「肉垂」が目立つようになる。



この赤い顔が、縄張りを守る重要な役割をしている。繁殖期には、赤くて動くものは、何でも攻撃対象になる。人間も例外ではなく、赤いバイクの郵便配達員がキジに襲われることも珍しくない。



子育てはメスだけがする。7月になると、メスが多数の雛を連れて歩き回る様子が見られるようになる。雛はウズラのような羽色で、雌雄の区別は難しい。